

Table of Contents

序文 1—なぜTooth Wearは「クインテッセンス(真髄)」的課題なのか？	Alberto Álvarez Fernández	7
序文 2	Jaime A. Gil	8
著者前書き		9
献辞		10
謝辞		10
著者プロフィール		11
訳者一覧		13
監訳者のことば	田上順次	13

SECTION I Tooth Wearの理解 14

CHAPTER 1 Tooth Wear：主要な健康問題 17 (訳：保坂啓一)

1. TWによる世界的な影響 17
 2. 生理的TWと病的TW 24
 3. 人類学のおよび現代的な歯の摩耗 24
 4. TWの有病率 26
 5. TWと健康 28
 6. TWの本質的な課題 30
 7. TWの経済性：TW カーブ形状 31
 8. TWの地理学的考察 34
 9. キーポイント 38
- 参考文献 38

CHAPTER 2 Tooth Wearと唾液：防御の最前線 40 (訳：保坂啓一)

1. 口腔と全身健康のつながり 43
 2. 唾液と口腔マイクロバイーム：口腔と全身の健康の防御 45
 3. 唾液, 口内細菌叢, および歯の摩耗 47
 4. TW患者における安静時唾液流の重要性 52
 5. 唾液と酸蝕 54
 6. 臨界pH 57
 7. ブラキシズムと唾液 58
 8. 唾液分泌の改善：みえない防御 59
 9. キーポイント 60
- 参考文献 60

CHAPTER 3 Tooth Wearの病因と種類 62 (訳：宮崎真至)

1. Tooth Wear：歯の損耗 65
 2. 歯の損耗の病因 66
 3. 歯の損耗(TW)と小児患者 72
 4. 思春期と成人における歯の損耗 78
 5. TW指数 90
 6. 歯の摩耗の手がかりを探る/生活習慣・健康に関するTW質問票 93
 7. キーポイント 93
- 参考文献 94

SECTION II Tooth Wearの評価と治療 98

CHAPTER 4 Tooth Wearの診断と治療計画 101 (訳：島田康史)

1. TW患者の初診について 101
2. TW患者の病歴 108
3. TW患者のインフォームドコンセント 109
4. 患者を中心としたTWの治療方針 110
5. 理想的な咬合スキーム 112
6. 材料の選択：削除と追加を行う時期 119
7. 精度と歯質保存の原則 124
8. 従来法によるデータ取得 124
9. デジタルによるデータ取得：デジタル時代のクロスマウンティング 130
10. 従来法とデジタル法：ホップオン・ホップオフのワークフロー 134
11. 部位ごとの連続的再構築 136
12. キーポイント：TW治療ワークフロー 137
参考文献 139

CHAPTER 5 初期のTooth Wear 140 (訳：島田康史)

1. TWの発症 144
2. 酸蝕とう蝕：関連性はあるのか？ 148
3. 切縁のクローズアップ 150
4. 初期TWの前歯誘導と犬歯誘導 153
5. 矯正治療によるTWの阻止 156
6. 前歯誘導と犬歯誘導の回復 161
7. 初期の酸蝕による損傷の阻止 164
8. キーポイント：初期TWのフローチャート 176
参考文献 176

CHAPTER 6 中等度のTooth Wear：治療戦略 178 (訳：高橋真広)

1. 中等度のTW：スペースの問題 181
2. 摩耗面への接着 184
3. 中等度のTWに対するCR修復：直接法vs間接法 189
4. TWにおける口蓋側の修復 197
5. 歯の摩耗に対するPLV 202
6. VDOの増加：目標よりも道具として 212
7. Non-Carious Cervical Lesions(非う蝕性歯頸部歯質欠損) 220
8. キーポイント：中等度/重度 TW におけるディシジョンメイキング(意思決定) 223
参考文献 223

CHAPTER 7 重度のTooth Wear：治療戦略 226 (訳：高橋真広)

1. 中等度から重度のTWまで 229
2. ワックスアップ：設計図 234
3. アンテリアガイダンスのためのPLVによる付加的なアプローチ 236
4. 咬合様式：咬合高径 (Vertical Dimension of Occlusion：VDO)と中心位 (Centric Relation：CR) 244
5. インダイレクトボンディッドインレー/オンレー 261
6. 一歯単位の修復のための部分被覆冠と全部被覆冠：咬合調整と研磨 261
7. キーポイント：重度TWにおけるディシジョンメイキング(意思決定) 262
参考文献 262

CHAPTER 8 Tooth Wear治療における歯科矯正学 264 (訳：上津原悟郎／今村俊博)

1. 不正咬合とTW 267
2. TWを防止し、歯質を保存するための歯科矯正学 286
3. 欠損スペースを確保し、歯質を保存するための歯科矯正学 297
4. コミュニケーション：TWの結果を左右するキープレイヤー 305
5. 矯正治療と修復治療に介入するタイミング 307
6. キーポイント：TW治療計画 矯正-修復チームにおける検討事項 307
参考文献 308

Chapter 9 Tooth Wearのある患者のインプラント 310 (訳：塩田 真)

1. 生物学的ならびに機械的な考慮事項 313
2. 臨床的推奨事項 317
3. TW患者におけるオーバーロードとインプラント脱落 323
4. 重度TW患者におけるインプラントと咬合スペース：垂直的關係崩壊の処置 330
5. 重度TW患者におけるデジタルクロスマウントとデジタルプロトコル 346
6. インプラント治療を行ったTW患者のメンテナンスプロトコル 359
7. キーポイント：TW患者におけるインプラント 360
参考文献 360

SECTION III Tooth Wear治療における予防と長期メンテナンス 362

CHAPTER10 われわれはTooth Wearの進行をゆるやかにできるだろうか 364 (訳：宮城和彦)

1. TW治療30年の経験：われわれは何を学んだか 365
2. 現代の生活習慣：可能性を変える 368
3. 栄養上のリスクファクターへの対処：酸蝕防止食品の利点 372
4. 異常習癖のコントロールと理想的な咬合形態：長期メンテナンスの鍵 375
5. 口腔衛生とTW 379
6. TW予防の新戦略：健康的な唾液を増やし昼夜の防御を強化する 385
7. TW患者の長期メンテナンス 388
8. TW患者を中心とした長期管理：QOL, PREM, PROM 398
9. キーポイント：TW患者の一般的なメンテナンスガイドライン 399
参考文献 399

付録 403 (訳：西村耕三)

- 付録1—ライフスタイルと健康に関するTooth Wear(TW)質問票 403
付録2—TWの患者のためのインフォームドコンセント(地域の法的地位に適應するため) 407
略語一覧 409